屁たれジッチャ

むがし、あるどごさ、仲っこのいいジッチャ(じいさん)とバァチャ(ばあさん)があったけど。夏のあっちうちに、一生懸命働いで畑がらヤッペァ(たくさん)豆コとったど。正月きたたえに餅コさつける豆の(粉)コッコつくっておぐべどもって(おこうと思って)、空鍋コかけでヌグダメデ(あたためて)、豆コゾロゾロッとヒダド(入れたそうだ)。カラ・カラどナゲェ(長い)火ばしでカマシテ(かきまぜて)、エグ(よく)焼いでがら、豆コどご臼さヘデ(入れて)杵でドッシン、ドッシンどついだど。

そしてるうちに、豆コだいぶコメキャグ(細かく)なってきたたえに、コロス(ふるい)でおろしてエルこどにしたど。ンダバッテ、ジッチャの(家)エのコロスどごねずみかじってしまって、穴だらけになって使い物になねぇがったど。ホエデ(そこで)ジッチャが「バッチャとなりさえってコロスかりでこい」ど言ったど。ソエデ(それで)バッチャ右どなりの(家)エさ借りにエッタキャ(行ったら)、おっき犬コねころがって「ウー、ウー」とうなり声あげで、とてもでねばてオコネグテ(こわくて)近よれねがったど。ソエデ今度左どなりさエッタキャおっき(牛)べゴ角たでで、「ジロッ・ジロッ」てにらめだど。バッチャは「ジッチャ、コエンタワゲデ(こうゆうわけで)借りられねぇ。こまったな」というごどになったど。シタキャ(そうしたら)ジッチャ考えで、「うん、シタラ(それなら)おれのふんどしでおろすべ。おれ今はじしたえにな。ほらオメェ(おまえ)そっちにぎれ」というごどで、二人しでジャッコ(雑魚)でもすくうみでにして、豆コふんどしさノヒデ(のせて)、右さ左さ腰コまげで、「そうら、そうら」どおろしたど。昔のふんどしだば麻でつくってるたえに目ッコ荒れくて、コナッコが「パフッ　パフッ」と

おじだど。

ンダバッテ、へっぴり腰のままでチカラヘデ(力を入れて)えるもだたえに、だんだん下っぱら苦しぐなって、ケッチがむずむずしてきたど。がまんしたじばって、「ボワッー」「ドバッーン」と屁たれでしまったど。あんまりおがしぐてバッチャ笑いだしてるうぢに、ふんどしの豆コも白の豆コもサッと飛んでしまって、ニワイッペ(土間いっぱい)にちらばってしまって、コッコできねぐなってしまったど。おしまい。